

製品名: サイクリン E1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86268**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から 12 ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:2000,ICC/IF 1:100-1:500,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:47 kDa; Observed MW:47 kDa

抗原情報

遺伝子名	Cyclin E1
別名	CCNE; pCCNE1
遺伝子 ID	898
SwissProt ID	P24864
免疫原	ヒトサイクリン E1 の合成ペプチド

背景

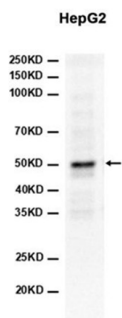
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通じて

タンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられます。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能します。異なるサイクリンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与します。このサイクリンは、細胞周期の G1/S 期移行に必須の CDK2 と複合体を形成し、その調節サブユニットとして機能します。このタンパク質は G1-S 期境界に蓄積し、細胞が S 期を進むにつれて分解されます。この遺伝子の過剰発現は多くの腫瘍で観察されており、染色体不安定性を引き起こし、腫瘍形成に寄与する可能性があります。このタンパク質は、細胞周期制御性ヒストン遺伝子発現に関与し、pRB 非存在下での細胞周期進行の促進に重要な役割を果たす NPAT タンパク質 (ATM 遺伝子座にマッピングされた核タンパク質) のリン酸化と関連し、そのリン酸化に関与することが明らかになりました。 [RefSeq 提供、2016 年 4 月]

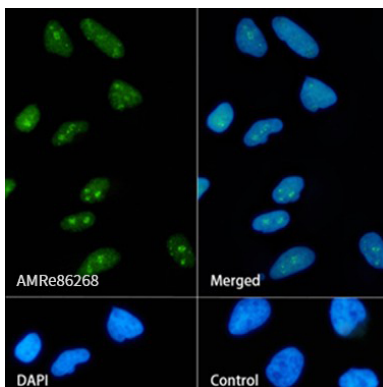
研究分野

-

画像データ



サイクリン E1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した HepG2 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。



AMRe86268 でサイクリン E1 を標識した HeLa 細胞の免疫蛍光分析。